

ダイコン (アブラナ科)

春播き：春いち、おしん
秋播き：耐病総太、秋いち

1 作業体系

月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作業体系		○ 播種	○ 間引き・追肥・土寄せ		□□ 収穫	□□		○	□□□□□	□□□□□	

2 ここがポイント！

- ・生育適温は20℃前後で、暑さには弱く、25℃以上になると軟腐病などが発生しやすくなります。また、13℃以下では花芽が分化し、とう立ちのもととなります。
- ・うり類、ねぎ、スイートコーン等の後作の肥えた畑を選んで栽培します。
- ・秋播きは、種まきが早過ぎるとアブラムシやモザイク病が発生しやすいので、8月中旬以降とします。また、台風等大雨が降ることがあるので、排水を良くして湿害から守ります。

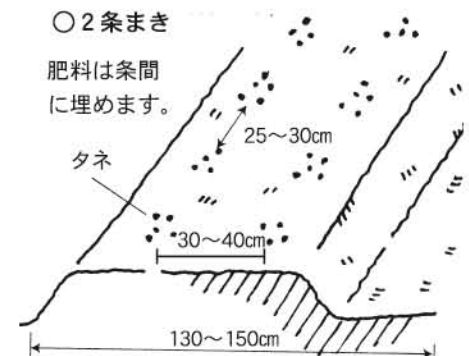
① 畑の準備

堆肥を施す場合は、完熟したものを、種まき3ヶ月以上前に施し、十分耕しておきます。耕土が深く、排水の良い畑が適し、2～3回掛けて、深くまた土が細かくなるように耕します。石灰が少ないと、す入りが早いので、苦土石灰等多めに施します。

② 種まき

畝幅は130～150cmとし、排水の悪い畑は30cm以上の高畝とします。

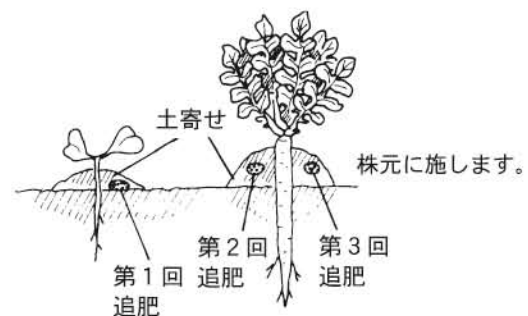
条間30～40cmの2条、株間25～30cmで、1穴3～4粒ずつ種まきします。



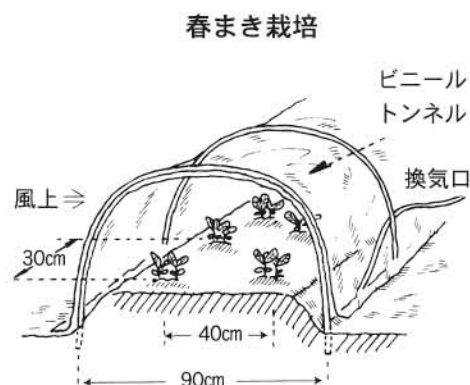
③ 間引き・追肥・中耕・土寄せ

間引きは、本葉1枚で3本、葉2～3枚時に2本とし、5～6枚時に1本とします。

〈間引き〉



※春播きは、とう立ちし難い品種を選びます。また、防寒と生育促進のため、トンネル栽培を基本とします。トンネル内は日中25℃前後の温度で管理し、外気温が最低10℃以上になる5月中旬以降に取り外します。トンネル内は土壌が乾きやすいので注意が必要です。



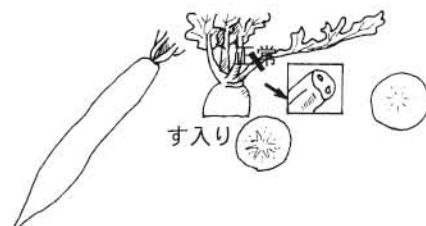
3 施肥設計

10㎡あたりkg

肥料名 (窒素-リン酸-加里)	基肥	追肥			備考
		1回	2回	3回	
苦土石灰	1.0~1.5				・基肥重点とします。
BM苦土重焼燐 (0-35-0)	0.4				
マルチサポート1号	0.8				
野菜有機ペレット (10-5-7)	1.0	0.1	0.2	0.1	

4 収穫

秋播きでは種まきから収穫まで70~80日。春播きはトンネル栽培で80~100日を目安に収穫します。取り遅れは、す入りの原因となるので注意します。



葉のつけ根を切って見て、断面にす入りしているものは根もす入りしています。

5 病虫害防除

連作や高温期の早播きは土壌病害（萎黄病、軟腐病、黒腐病）が発生しやすいので、上手な輪作体系をたてます。

キスジノミハムシ、タネバエ、コナガ、ヨトウムシ、シンクイムシ等が発生しやすいので、発生初期に防除します。

6 豆知識

ダイコンはアミラーゼを含み消化を助けます。辛み成分は胃液の分泌を促し食欲増進効果があります。根も生ではビタミンCが多く、葉はカロテンなど栄養豊富です。

	(生)	(ゆで)
ビタミンC (根)	11mg	9mg
ビタミンA (カロテン) (葉)		4,400 μg
ビタミンC (葉)		54mg
鉄 (葉)		2.2g

五訂 日本食品標準分析表より (100gあたり)